

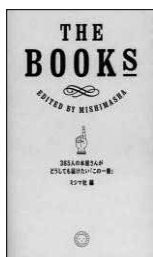


図書館 だより

図書館 ☎69♦3706

おしえて! 図書館 (レファレンス)

- Q 読書しようと思うけど、いい本ないかな?
- A そういう時、こちらの本はいかがでしょう♪



THE BOOKS
365人の本屋さんがどうし
ても届けたい「この一冊」
ミシマ社/編
ミシマ社

絵本に小説、ジャンル分けが難しいような本まで、365冊の紹介が手書きのメッセージとともにギュッと詰まった楽しいブックガイドです。何か面白い本ないかな?という時にどうぞ。もちろん図書館員にもご相談ください♪秋の夜長に「本」との楽しい出会いがありますように。

レファレンスとは情報や本などを探すお手伝いをする図書館のサービスのひとつです。

図書館に入った本



いろいろな本があります。
一部をご紹介します♪

小説・エッセイ	『芥川症』 久坂部 羊/著 新潮社
	『初恋料理教室』 藤野恵美/著 ポプラ社
料理	『みんなのおやつ ちいさなレシピを33』 なかしましほ/著 東京糸井重里事務所
旅行	『野武士、西へ 二年間の散歩』 久住昌之/著 和泉晴紀/画 集英社

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。

魚は酔っ払うか

■魚はお酒を飲まないか

毎日水族館で魚を観察している「アンタらはお酒を飲まなくていいから羨ましいね」と思うことがある。水族館の人なんだから魚を観察するならもっと専門的なことを思ったり考えたりしたらどうだ、という意見もあるでしょうが、そういうことを言う人は今回は無視しますよ。とにかく通常「魚はお酒は飲まない」のです。

「う」などと思う状況はまさにお酒の席。酔っ払っていい気分になった相手から水底のハゼ的全面笑顔で寄ってこられたり、上機嫌で特段深い意味のない事を語られたりするとシラフのこちらは対応に困り、即座に相手を殴って走って逃げたくなってしまおう。

コーラやお茶で酔っ払ったフリをする苦しみと悲しみを酒豪は知らない。形原の漁師さんはウミガメが網に入るとお酒を飲ませて海に返すというがウミガメに生まれなくてよかったですと思う。



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68♦2059

■水中と陸上、エラと肺

以前、小学校への出張授業で「ザリガニやメダカと私たちの違いはなんだろうね」という質問をしたら「ザリガニはアピタに行かないけど、人間はアピタに行く」といった子どもがいた。まあその通りですが、もつと違うところはある。魚は水中でのエラ呼吸、人間は陸上での肺呼吸というのは大きな違いで、魚は青年期にグレートタバコは吸わない。アピタの喫煙ルームでタバコを吸う魚は見たことがない。そもそも水中は火が付かないので吸えない。

■水中の浸透圧

しかし、お酒に関しては、魚は飲むことが可能です。特に海の魚はその気になれば多量のお酒が飲めるはずですよ。

実は魚は水中で水を飲んでいて、海の魚は自身の体内の塩分濃度よりも外界(海の中)の塩分濃度のほうが濃いため、浸透圧により体内の水分が海水中へ放出移動される運命にある。極端にいうと海の魚は常に海の水を飲んでいないと干物になってしまうのです。川の魚は逆に体内の塩分濃度よりも外界のほうが薄いので、水が体内に入ってきて水ぶくれしてしまう。そのため尿を多量にして水分を排出している。海水魚は水分をなるべく体に維持したいため、高濃度の尿を少量しかしない。

やったことはないのでも明だが、たとえばタイの水槽にお酒を入れようか。あ、タイはもともと赤いので酔ったかわからない。